

令和6年度学校評価の分析

令和7年2月19日(木)全教職員による研修にて

※()内の割合は、前年度の評価→今年度の評価

<今年度の成果について>

- ・ 児童の項目全体を通して、成果としてあげられる。
- ・ 児⑩「掃除や日直・係・委員会の仕事をきちんとしている」(93%→97%)
- ・ 保⑦「学校で友達を大切に、仲良くしている」(92%→100%)
保⑤「宿題や次の日の準備が毎日できている」(82%→97%)
保⑧「家でできまりや約束が守れている」(79%→94%)
保③「家で自分の考えや気持ちを伝えられている」(90%→95%)の4項目については、家庭の力が大きく影響している。
- ・ 教⑨「単元の見通しを立て、分かる授業づくりができている」(87%→100%)は、日々児童のために、朝早くから夕方遅くまで教材研究を行いながら一生懸命に取り組んでいる。
- ・ 家庭との連絡を密にすることを心がけることで、児童の様子や思いについて保護者と情報交換し共通認識することが有効であった。

<次年度に向けての課題について>

- ・ 児⑫「あいさつをしたり、あいさつを返したりしている」(89%→92%)は成果としてあげられるが、声の大きさや自分から進んですることにおいて課題がある。
- ・ 保④「本をよく読んでいる」(40%→40%)は、メディアをはじめ楽しいものがありすぎることも要因の一つ。
- ・ 保⑨「お手伝いや掃除ができている」(69%→64%)
保⑫「学校は子どもの良さを伸ばすような指導をしている」(90%→79%)
保⑬「学校は子どもの改めるべき所を適切に指導している」(89%→77%)
保⑭「学校は一人一人に対して、ていねいに対応している」(98%→82%)については反省点と捉え、個人や全体として見直し・改善が必要。
- ・ 組織としての情報共有が十分でない。(特に生徒指導や防災面において)
- ・ 評価結果から、教職員と保護者との意識のずれが見られる。教職員の自己評価が甘いのではないか。
- ・ 教⑫で掃除の率先垂範は十分ではない。
- ・ 教⑰でコンプライアンス意識の更なる向上と、日々の効率的な業務のためにも、机の上をはじめ、校舎内外の整理整頓が必要。

<継続・発展させたい取組や具体的改善策等について>

- ・ 児⑪の読書の質問については、具体的に「好き」なのか、「冊数」なのか答えやすいようにする必要がある。(保護者と児童の質問が整合されるように)
- ・ 週末や長期休みなどに「親子読書」を検討してみても。
- ・ 月1度公民館で実施している読み聞かせを、学校でもしてもらえないか。
- ・ 毎週水曜日の朝活を「読書」の時間にしたい。NIEタイムは継続して活動する。
- ・ 児⑨は質問する相手が不明なので、「先生や友達」など分かりやすくする。
- ・ 児⑥「授業は分かりやすい」だけの表記でも良い。
- ・ あいさつや掃除、言葉遣いなどの指導を徹底する。

- ・ 「どちらともいえない」→「よくわからない」の表記の方が、学校側の意図が伝わるのではないか。
- ・ 印刷配布するお便りについては、わかりやすく情報発信する意味としてカラー印刷を継続させたい。
- ・ 教材の購入については、保護者の負担にならないように慎重に選定する。
- ・ 企画会や終礼の方法を見直す。(企画を通さずに急に終礼に出す議題があった)
- ・ 児童一人一人を丁寧に見取り、様々な課題に対して早期発見・早期対応することを継続させる。
- ・ 教職員と保護者との意識の乖離が見られることから、一人一人の児童や保護者の思いに寄り添い、専門機関とも連携して個々の課題を丁寧に解決していく体制を整え、組織的に対応していく。
- ・ 風通しの良い職場環境づくりに努める。(チームで動く、報・連・相の再確認など)

※改善策については、次年度に向けて具体的な方法や取組について協議する。